

## ラジオ放送「福音の光」説教 「父よ、彼らをお許し下さい」

ルカの福音書 23 章 32 ～ 38 節

姫路あけぼの教会牧師 廣田守男

「父よ。彼らをお赦してください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」

皆さんおはようございます。今から約二千年前にエルサレム郊外の「どくろ」と呼ばれるゴルゴダの丘に三本の十字架が立てられました。二人の犯罪人に挟まれ、イエス・キリストは真ん中に磔（はりつけ）にされたのです。

イエス・キリストが生まれる七百年程前に預言者が「自分のいのちを死に明け渡し、そむいた人たちとともに数えられた」との預言の通り、犯罪人の筆頭人として処刑されたのです。神は「罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされ」断罪したのです。イエス・キリストが十字架の上で「私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた」のです。しかし、悲しいことに私たちは「さげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で、人が顔をそむけるほどさげすまれ」とイエス・キリストを「尊ばなかった」ばかりか、イエス・キリストが処刑されたのは、神から「罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと」断罪するのです。これは自己中心的にしか物事を見ることが出来ない私たち人間の罪であり、愚かさなのです。

イエス・キリストは「私たちの病を負い、私たちの痛みをになった」お方です。そのイエス・キリストが十字架の苦しみの中で、神に「父よ」と呼びかけたのです。この神は天地万物の創造者で、今も生きてすべてを支配しておられる神です。イエス・キリストがいつもお父様と呼び信頼している神に「彼らをお赦してください。何をしているのか自分でわからないのです」と祈って下さったのです。

では、イエス・キリストが祈られた「彼ら」とは一体誰のことでしょうか。イエス・キリストを十字架に磔（はりつけ）にした当時の兵士達や周りにいた人達のことでしょうか。それならば、イエス・キリストの「父よ、彼らをお許し下さい」との祈りと私たちとは無関係となります。

確かに、イエス・キリストの十字架の死は神の救いの計画である事も事実です。しかし、「罪のないイエス・キリストを十字架の処刑にした」のは「人間の罪」の結果である事も事実として認めなければなりません。

宗教家の「ねたみ」の罪が死刑を要求したのです。人を「ねたみ、憎む」罪は人殺し

の罪です。また群衆も宗教家に先導され「バラバを釈放しろ。イエスを十字架につけろ」と叫んだのです。何も考えないで付和雷同的に行動する人間の罪です。イエス・キリストの弟子の一人は奴隷一人の値段で自分の指導者を敵に売り渡し、また自分に危険が及ぶと「自分の身かわいさ」にイエス・キリストを置き去りにして逃げ、また「弟子である」ことを否定したのです。ポンテオ・ピラトはイエス・キリストの無実、潔白を認めながら自分の地位保全のため死刑の判決を下し、水で手を洗い、責任を放棄したのです。兵隊は唾をかけてあざ笑い、道行く人も罵（ののし）ったのです。弱い者をあざけりなぶり者にする姿です。

当時の人々のこの姿は私たち一人ひとりの内に潜んでいる罪の現実、汚い自己中心の姿そのものの現われです。私たち一人ひとりの内にある罪、自己中心が、自分さえ良ければよいという考え方そのものがイエス・キリストを十字架に磔（はりつけ）にしたのです。イエス・キリストはその私たちのために「父よ。彼らをお赦してください」と祈って下さったのです。

イエス・キリストへの「懲らしめが、私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた」のです。私たち一人ひとりが、このイエス・キリストの祈りを受け留め、神の前に罪を悔い改め、主イエス・キリストを受け入れ、罪の許しの恵みに与ろうではありませんか。